

## No.9 「外房海域におけるスナメリの保護に関する基礎的調査」

平成 18 年度野生動物保護募金の助成を受けた「外房海域におけるスナメリの保護に関する基礎的調査」の実施結果を次のとおり報告いたします。

東海大学海洋学部海洋生物学科内  
スナメリ保護調査の会 石津 香玲良

### 活動内容

外房海域に生息するスナメリについては、これまで散発的に観察されているが、その存在について十分に知られているとは言い難い。スナメリも野生動物であり、その生態を保護していくためには、住民が正しい認識のもと、一体となって保護に向けた活動していくことが不可欠である。そこで本研究では、スナメリが観察される海域の住民がどの程度スナメリを認識しているかについて調べることを目的として、アンケート調査を行った。

さらに、実際にスナメリを目視観察して、目視と住民の認識の程度関連を探ることとした。

### 期 間

①第 1 回調査（秋季調査）：平成 18 年 9 月 13 日—9 月 17 日（5 日間）

②第 2 回調査（夏季調査）：平成 19 年 7 月 9 日—8 月 23 日—24 日（6 日間）

\* 台風および地震の発生により調査期間が短縮となった。

### 対象海域

千葉県鴨川湾(千葉県鴨川市)付近および千葉県太東埼・大原港(千葉県いすみ市)付近

#### i) アンケート結果

結 果:スナメリ自体のことは知っていても、それが自分たちの海域で見られることを知らない人が多かった。また、地元のスナメリに関しては、海に出る機会の多い人は多少の知識や情報はあがるが、一般の住民のスナメリに対する認識が低い。

#### ii) 目視調査結果

##### ○鴨川

・ 目撃確率 夏 季 4 日 / 8 日 (50%)

##### ②目撃個体数と距離

- ・ 岸からの距離は 200—1500m と幅広く、近い場合、遠い場合さまざまであった。
- ・ 定置網の船舶付近に出ることや岸近くの場合もあり、かなり沿岸に慣れている印象がある。
- ・ 群れの頭数は小規模であった。

##### ③目撃時刻

- ・ 出現は午前中が多いが、午後にも発見があった。
- ・ 過去数年間の調査と比較して、本年初めて、午後に来遊が目撃された。

その他の地区調査結果は省略します

### まとめ及び結論

スナメリの出現や目撃の頻度が高くなく、また出現しても小規模で海域間で差があり、移動等との関連が示唆された。また、住民の認識や関心が低く、保護を考える上では、地域に生息するスナメリの存在に関する啓発的な活動が必要である。

#### 活動成果の公表の方法

- ・来年度の日本水産学会（または日本哺乳類学会）等での公表を検討している。また、さらに継続的な知見が蓄積できれば、それを統括して学術論文として公表予定。

#### 活動に取り組んだ団体数、従事者数

- ・「スナメリ調査保護の会」が中心となって実施。
- ・本年度の本調査への従事者は12名。

#### 活動成果が下回った理由

- ・調査実施予定期間のひとつであった2007年7月9日～16日のうち、7月13日～16日は台風の襲来により調査が不能となった。

さらに、予定期間の2007年8月18日～8月24日のうち、8月18日～8月22日は地震の発生とその影響（安全確保）のため調査ができなかった。

以上のような理由によって、調査期間が大幅に少なくなってしまった。

#### 収支報告書

機材購入費など	7,785 円
宿泊費、消耗品など	163,200 円
合 計	170,985 円

#### その他

上記の天候不良等の理由により調査が完遂できなかったため、一部、助成金(129015 円)を返却した。

以上